



サステナビリティ

環境

住まい・エネルギー・廃棄物・地球温暖化

社会

社員・雇用・安全衛生・社会貢献活動

■住まい

「快適な住環境を次世代につなぐ」ことが当たり前の社会をつくる

住宅の木材の腐朽やシロアリの被害、ビル・マンションの給排水管の劣化など、目に見えないところに、大切な建物の寿命を縮める要因が潜んでいます。サニックスグループでは、「予防医学（未然に防ぐという思想）」の見地から、トータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

▼重要指標の進捗状況

(軒・件)

事業開始以来の累計実績 (年度末時点)	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
シロアリ防除施工軒数	835,000	840,000	845,000
給排水管維持管理施工件数	39,000	40,000	41,000

※1,000軒・件未満切り捨て

▼2025年度の取り組み事例(株サニックス)

- 営業の間口を広げる協業を継続推進し、ハウスメーカー、集合住宅関連の不動産開発および管理業者などと協業
- 野外音楽祭会場(福岡市)における蚊対策が10年目に



ヒトスジシマカの生息調査

■エネルギー

「環境負荷の低いエネルギー」が当たり前の社会をつくる

脱炭素への取り組みは、いまや人類全員の共通課題です。日本においても、2050年カーボンニュートラル宣言以降、その流れは加速しています。私たちは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案。導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

▼重要指標の進捗状況

(件)

事業開始以来の累計実績 (年度末時点)	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
太陽光発電施工件数 (自社施工分)	50,000	51,000	52,000

※1,000件未満切り捨て

※住宅用、産業用の合計数値

▼2025年度の取り組み事例 (株サニックスエンジニアリング)

- 自治体の太陽光発電導入事業の完工・運用開始
 - ・熊本県県有3施設
 - ・徳島県鳴門市ボートレース鳴門



熊本県こども総合療育センター



熊本県宇城総合庁舎

■廃棄物

「捨てない」が当たり前の社会をつくる

持続可能な社会づくりが社会共通の課題となる今、産業廃棄物の適正処理・管理・リサイクルは、重要なテーマです。当社グループでは、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化・リサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

▼重要指標の進捗状況

(千t)

事業開始以来の累計実績 (年度末時点)	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
廃プラスチック処理量	6,200	6,500	6,800
廃液処理量	2,600	2,700	2,800

※ t 未満切り捨て

▼2025年度の取り組み事例(株)サニックス資源開発グループ

- 大阪・関西万博「TEAM EXPOパビリオン」に参加(回収した海ごみ・産業廃棄物のプラスチックから壁面アートを作成)
- 「グリストラップ汚泥からジェット燃料の原料製造事業」が、環境省の「令和7年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業のうち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業(うち、廃棄物等バイオマスを用いた省CO₂型ジェット燃料等原料製造・社会実装化実証事業)」に採択
- 新潟工場が「令和7年度 新潟県優良リサイクル事業所表彰」を受賞



アールブリュット作品を、廃プラスチックを原料に3Dプリンターで再現(大阪・関西万博)。

■地球温暖化

当社グループにおいては、太陽光発電の普及促進、住宅の長寿命化や廃棄物のリサイクルによるエネルギー消費抑制など、事業を通じて温室効果ガスの排出削減に寄与しています。ここでは、自グループからの排出削減について、ご報告します。

▼重要課題の目標と進捗状況

GHG排出量削減目標:2031年3月期GHG排出量50%減(2020年度比)=排出量12,397t-CO₂

(t-CO₂)

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
GHG排出量	20,684	19,389	22,734

※ t 未満切り捨て

▼2025年度の取り組み事例

- 当社グループ内の自社所有10施設に導入した自家消費太陽光発電が、運転開始5年目に。
 - ・10施設の太陽光発電による2025年度の自家消費量 631,158kWh/年(CO₂排出量削減266,980kg-CO₂相当)

※一般送配電事業者のCO₂排出係数(令和6年度実績)に基づく当社試算による。



新潟工場の太陽光発電(設備容量231kW)

■社員・雇用

企業活動の全ては人財にあり。未来を担う人財を創出する

サニックスグループでは、かねてより、「人づくり」を重点課題の一つとして位置付けてきました。2025年度には、「自律して、挑む」を人事・組織運営の基本的な考え方として掲げ、その実現に向けた重要な価値観として、「創造性・挑戦」「多様性」「心身の健康」を明文化しました。社員一人ひとりが、自らの意思で最高のパフォーマンスを発揮するための舞台を整え、持続的な成長を図ります。

※2025年4月1日付でホールディングス体制へ移行したことから、以下の数値は、2026年3月期より主要な連結子会社を含めて算出しています。

▼重要課題の目標と進捗状況

- ・平均有給休暇取得率：2031年3月期までに70%以上
- ・育児休業取得率（男女平均）：2030年までに実質100%（年度をまたいでの育児休業開始を含む）（%）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
平均年次有給休暇取得率※1	64.4	56.5	60.7
育児休業取得率※2	72.7	69.0	77.8
女性管理職比率	3.0	3.3	4.4
男女の賃金格差 （パート・有期労働者含む）	65.9	67.6	67.9

※1：法定の年次有給休暇のみを対象として算出。当社グループ独自の特別休暇（2025年3月期より年5日付与）は含みません。

※2：当該年度の出産者（本人もしくは配偶者）のうち、同年度内に育児休業を開始した者の割合。

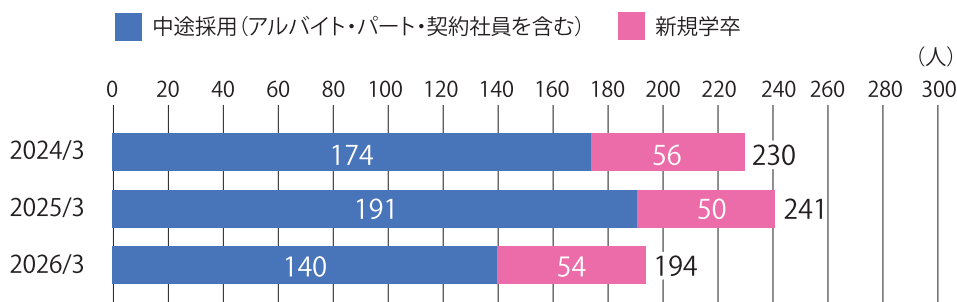
▼2025年度の取り組み事例

- サニックスホールディングス本社に、社員向けヘルスケアルーム開設
- 人事ポリシーおよび、改定人事制度の策定

ヘルスケアルームには、国家資格をもつ専任スタッフ（従業員）を配置。



採用状況（入社数の推移）



多様な雇用サポート体制

▶メンター制度によるサポート

新規学卒の新入社員には、それぞれメンター（支援者）が付きます。実務教育係ではなく、メンティー（新入社員）の心情や悩みなどに対して正面から向き合う心強い存在です。

▶定年選択制によるライフプラン形成

60歳または65歳の定年選択制を導入しています。定年後の雇用についても、60～65歳の嘱託社員雇用、65歳以降の契約社員雇用など、柔軟に対応しています。

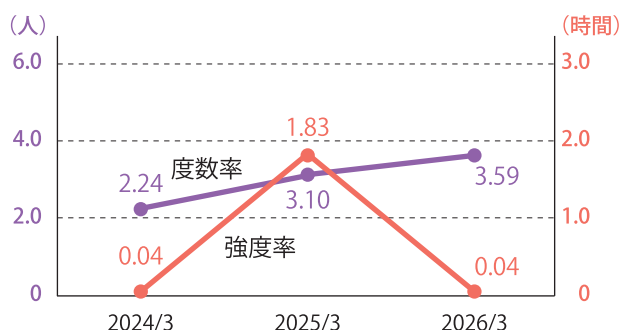
■安全衛生

労働安全衛生に関する基本方針

安全と心身の健康の確保を企業活動の最も重要な基盤の一つと考え、「労働災害ゼロ」を究極の目標とし、教育を通じて、社員の安全と健康意識の高揚を図り、社員の自発的な行動と企業が協力して、快適な職場環境の形成を目指します。

1. 社員の安全と心身の健康は事業発展の礎であることを認識し、快適な職場環境の形成を目指します。
2. 社員一人ひとりが安全確保に取り組み、全員が「お互いに」「その場で」注意しあえる関係を築き、強固な安全体制を構築します。
3. すべての作業について事前にリスクアセスメントを実施し、危険源を特定、除去、低減するための対策を継続的に実施します。
4. 労働安全衛生関連の諸法令および社内ルールの順守を徹底し、労働安全衛生活動の推進を可能とする組織体制を整備します。
5. 社員一人一人が安全意識を持ち、正しい知識と行動が出来るよう、安全教育と訓練を継続的に実施します。
6. 危険な事象を迅速に報告共有し（休業一日以上の労災が発生した場合）、再発防止策を徹底します。

▼重要指標の推移：度数率（発生頻度）と強度率（重さの程度）



度数率 (100万時間あたりの労働災害による死傷者数)

$$\frac{\text{労災による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

強度率 (1,000時間あたりの労働損失日数)

$$\frac{\text{延べ労働損失日数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000$$

▼2025年度の取り組み事例

- ホールディングス体制移行に伴い、各社による月例安全衛生会議に加えて、4月・10月にグループ合同会議を開催
- 熱中症対策の強化（水冷服・見守り端末の導入、対策タブレット・水の支給等、各社の業態に応じて実施）

安全衛生管理活動の事例

■ヒヤリ・ハット事例の共有・活用

各事業所で随時記録した事例を回収し、社内内で共有。危険度の高い事例は、毎月の会議で協議し、対策やルールの見直し、改善を行っています。



ヒヤリ・ハット事例の共有例

■安全大会 (株)サニックス資源開発グループ

毎年、工場ごとに趣向をこらした安全大会を企画・運営し、事故・災害防止への知識と意識を高めています。



フォークリフト運転競技大会 (笠岡工場)



高齢者業務体験 (ひびき工場)

その他、

- 現場パトロール
- リスクアセスメントによる作業方法等の改善
- 協力業者に対する協議会や巡回指導の実施
- 従業員に対する安全衛生教育 など

社会貢献活動

スポーツ・文化国際交流振興を通じて青少年を健全に育成する

サニックスグループは、国際的なスポーツ大会や文化イベントを実施し、ユース世代選手の育成と国際交流の場を提供しています。出場選手にとっては、海外選手との真剣勝負に加えて、競技以外でも、生活をともにしながらコミュニケーションを図り、お互いの文化への理解を深める良い機会となっています。

ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

49カ国・地域から約60,000人

(2026年3月末現在)

重要指標の進捗状況

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
スポーツ大会の開催	○	○	○

2025年度の取り組み事例 下記の大会・イベントへの協賛

※実績は、2026年3月末現在。

サニックス ワールドラグビーユース交流大会

2000年から、毎年4月下旬～5月上旬に開催。
女子(7人制)は2013年から。

【主催：(公財)日本ラグビーフットボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



歴代参加国・地域

オーストラリア、カナダ、中国、中華台北、イギリス、フィジー、フランス、香港、アイルランド、イタリア、韓国、ナミビア、ニュージーランド、ロシア、サモア、スコットランド、南アフリカ、タイ、トンガ、アメリカ、ウルグアイ、ウェールズ、日本
(2025年までの累計参加者：15,131人)

サニックス杯 国際ユースサッカー大会

2003年から、毎年3月下旬に開催

【主催：(一社)九州サッカー協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



歴代参加国・地域

オーストラリア、バングラデシュ、ブルガリア、中国、中華台北、イングランド、フランス、インド、イタリア、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ロシア、タイ、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本
(2026年までの累計参加者：9,174人)

※女子の国内大会も2014年より実施
(同累計参加者：2,938人)

サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

2008年から、毎年10月下旬に開催

【主催：九州ハンドボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



歴代参加国・地域

カナダ、中華台北、フランス、ドイツ、香港、韓国、オランダ、タイ、日本
(2025年までの累計参加者：4,550人)
女子大会は2013年より開催。

サニックスCUP国際新体操団体選手権

2003年から、毎年11月下旬に開催※ ※2012年度までは国内大会。

【主催：(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



歴代参加国・地域

オーストラリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、中国、中華台北、香港、カザフスタン、韓国、リトアニア、マレーシア、フィリピン、ロシア、タイ、トルコ、日本
(2025年までの累計参加者：12,866人)

2017年より、対象の年齢層を上げた「サニックスOpen新体操チーム選手権」を1月に、国内男子による「SANIXCUP男子新体操競技大会」を2月に開催。
(2026年までの累計参加者：サニックスOpen996人、SANIXCUP男子896人)

サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

2003年から、毎年12月に開催

【主催：九州柔道協会、(一財)サニックススポーツ振興財団他】



歴代参加国・地域

オーストラリア、ベスラン市、ブルガリア、チェチェン共和国、中国、中華台北、エジプト、ドイツ、香港、インド、イスラエル、韓国、ラトヴィア、マカオ、モンゴル、オランダ、パレスチナ、ルーマニア、ロシア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スリランカ、アラブ首長国連邦、アメリカ、日本
(2025年までの累計参加者：14,384人)

グローバルアリーナ ブルガリアフェスティバル

2001年から、毎年開催※ ※2001年は12月、以後9月。

【主催：(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



趣旨

ブルガリアの文化を紹介するとともに、日本とブルガリア双方の異文化・国際交流を図る。来日するカザンラック民族舞踊団は、グローバルアリーナでのイベントの他、各地の小中学校や福祉施設も訪問。

★マークの写真は©MasafumiONO